

# Part.2

Question. **小さな敷地でも広々暮らせる家、建ちますか？**



2階LDK。全部で22㎡ほどの小さな空間だが、窓の外にテラス、その向こうにルーバーが重なり合って、奥行きが深く感じられる



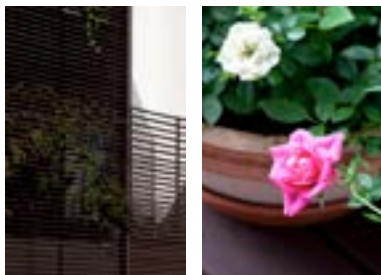
1. 道路側外観。密集地だが、敷地が南向きで、向かいがアパートの駐輪場になっているため日差しが遮られない。ルーバーの隙間は下ほど密に、上ほど粗くしている 2. 折り戸を開放すればテラスとLDKが一体に

敷地 16.7坪 建築面積 9.8坪

CASE 1

# 街中の小さな家でも「外」を感じて暮らす

埼玉・川口市 Iさんの家 家族構成/夫32歳 妻32歳 設計/山縣洋



「山縣さんが建てた家も見学したうえで納得して依頼したので、細かい要望は言いませんでした」と振り返る夫。すぐにふたりは山縣さんの基本計画案を気に入った。

3階建てを縦に3分割し、そのうち道路側を内外の中間領域で緩衝帯となる「BUFFER」に、中央を生活空間「BODY」とし、一番奥を階段室「SLOT」に充てる(右下図)。平面図で見るとシンプルだが、各階で天井高が異なり、それぞれ趣の違うテラスを持つ。トップライトの階段室からも光と風が行き渡り、まさしく「単純な構成で多様な空間が実現した。」

3層の建物を3分割して家中に光と風を行き渡らせる

小学校の同級生というーさん夫妻。新居にはふたりが育った街を選んだ。敷地を探らず段階から「それほど広い家は必要ない」と考えていたそう。また新婚ながら「これから子どもができて、いずれは出ていくんだし」と語る。

建築家を探すときのキーワードも「狭小住宅」だったそう。雑誌や本、インターネットで情報収集した中で、山縣洋さんが設計した2軒の小さな家と、「単純な構成の中に多様な空間をつくる」というコメントが目にとまった。

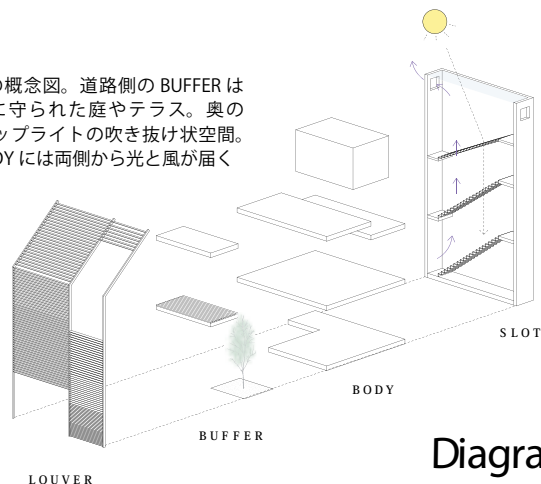
Answer

建築家・山縣 洋さん

## 容積を使い切るより外部を上手に生かす

敷地が小さいと、とかく容積率ぎりぎりまで床面積を確保したいと考えがちです。けれども、あえて外部を生かすことで、内部ものびのびと快適な場所になるものです。小さいからといって、空間が単調ではつまりません。内外の関係が空間に変化を与え、小さな家に広がりをもたらしてくれます。

空間構成の概念図。道路側のBUFFERはルーバーに守られた庭やテラス。奥のSLOTはトップライトの吹き抜け状空間。中央のBODYには両側から光と風が届く



Diagram



1.1階から2階への階段はダークな色に染められている。右手1階奥に洗面室・浴室がある。2.洗面室側から玄関ホールを見る。階段下、正面の壁面は収納に利用している。3.玄関ホール。上がり框の段差は8cmほどと低め。天井高は2mしかなく、ひっそりと静かな印象だ。玄関ドアは木製で、表面に凹凸をつけた帯ノコ目仕上げ



LDK北方向を見る。東西は隣家に挟まれているため、通風の小さな窓だけ。LDの天井高は2.8m、キッチンの天井高は2.2mで段差から3階がのぞく

## “階段を上るごとに変化する内と外との多彩な関係”

ロフトの追加で生じた段差がユニークな変化をプラス

駐車場の奥にある玄関ドアを入ると、そこは天井高の抑えられた静かなホールだ。階段のはるか上から下りてくる光が、白い壁をほのかに照らし出す。

階段室「SLOT」は上部が全面トップライトになっており、家の北側に光を採り入れる。最上部の両端にある窓を開けば、煙突効果で家中を風が通り抜ける。

2階LDは家の中で最も天井が高い空間だ。南には山懸さんが「外の部屋」と呼ぶテラスが続き、わずかに8坪ほどとは思えない奥行きが感じられる。さらに、北側を振り返ると、少し低くなったキッチンの天井の上から階上がのぞいている。この段差は「ロフトが欲しい」というさんの要望から生まれたもの。ロフトを追加したぶん、そ



の下の3階の床も少し下げる結果となった。このスキップが、空間にユニークな変化を加えている。

3階では、床の低い部分をワークスペースに、高い部分を寝室に充てた。ワークスペースの上にロ



4

2013  
MY IDEAL HOUSE  
Part.2 🏠



6



5

4. キッチンには妻の希望で対面式に。カウンターの奥行きは60cmと浅くしている 5. テラスは外気の空間とはいえ、天井も壁もあり、ルーバーに守られて“外の部屋”という表現がぴったり。夫の要望でハンモックを吊るす金具を用意した 6. キッチンにはII型で作業スペースも確保 7. 窓の向こうにルーバーが見えることで奥行きが生まれる



7



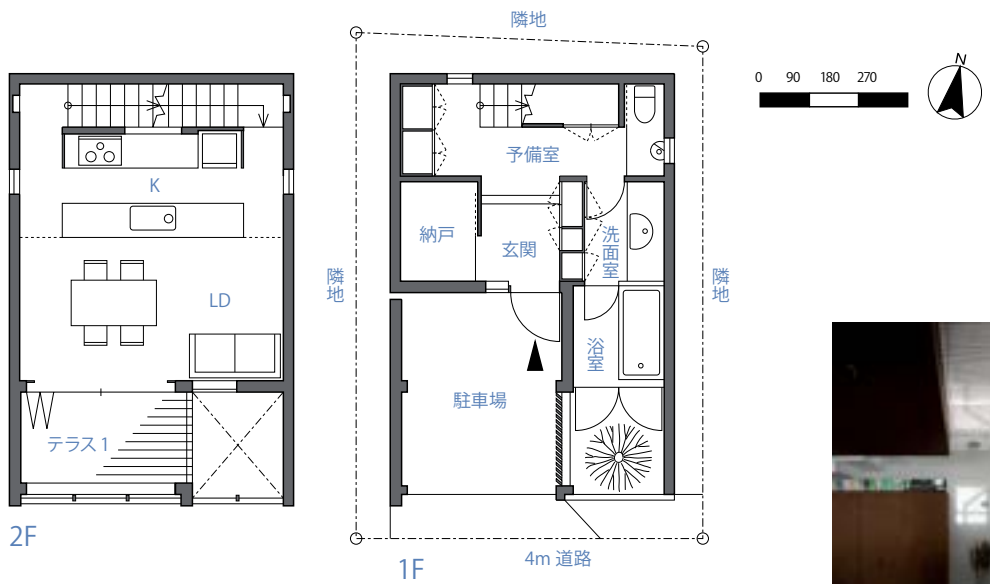
9

8.1 階洗面室は浴室、坪庭と連続。長いカウンターの下にはドラム式の洗濯機も設置している 9. 観音開きのガラス戸で坪庭に面した浴室。奥のルーバーは前面道路の視線を完全に遮る。休日には日中の入浴を楽しむこともあるそうだ



8

フトの床が箱状にぶら下がって見えるのもおもしろい。  
小さな家をさらに居心地よくしているのは、一さん夫妻の巧みな住みこなした。空間に合わせて中古家具を買い揃え、センスよく配置している。モノはなるべく増やさず、本は読み終わったら手放す方針だそう。その代わりに増え続けているのは観葉植物。「ルーバーにはわせるためにツル性のモッコウバラの鉢を置いたのがきっかけで、植物のおもしろさに目覚めました」と夫。枝葉の姿も様々なグリーンがそこそこ飾られ、彩りと潤いを与えている。



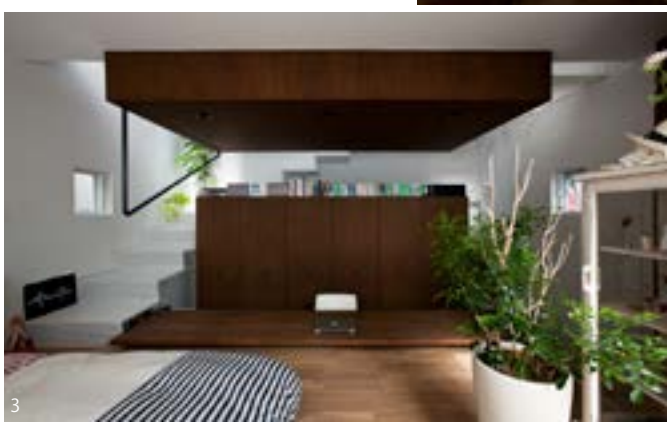
2013  
MY IDEAL HOUSE  
Part.2



1.3階寝室の天井高は2.2m。南面テラスを覆うルーバーは、ここではすっかり目が粗く、角度も浅くなっていて、室内にたっぷり日光が差し込む

2.寝室から階段室方向を見たところ

3.寝室から北側を見る。天井からぶら下がっているように見える木の箱はロフトだ。その下を家族共用のワークスペースにしている。ワークスペースと、背後の階段室との間は収納で仕切った。家中に間仕切り壁はほとんどなく、上下階が相互につながっていることも、小さな空間に広がりを与えている

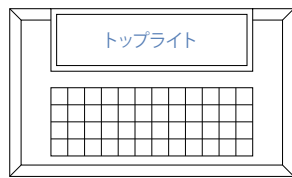


ワークスペース側から寝室を見る。段差を利用して低いほうに椅子を並べ、高いほうに天板を載せてデスクとした。足元は階下のLDにつながっている

## 1さんの家づくりカレンダー

結婚を機に家づくりを検討。夫婦ともに慣れ親しんだ街、川口で土地を探し始める。

- 2009年11月  
建築家との出会い  
「狭小住宅」に関する雑誌や本、インターネットなどで情報収集。「いいな」と思った家のうち、2軒の設計者である山縣洋さんの内覧会に参加する。
- 2010年1月  
ファーストプラン  
土地の契約に先立ちスケッチの提示を受け、正式に設計を依頼する。
- 2010年5月  
土地購入  
いくつかの候補の中で、妻の実家に近く、日当たりのいい敷地に決定。
- 2010年2月  
設計契約
- 2010年7月～9月  
実施設計  
ロフトの追加やトイレの位置変更などの調整を行う。
- 2010年10月  
工事費見積もり・見積もり調整
- 2010年11月  
工事契約
- 2010年12月  
着工
- 2011年6月  
完成・引き渡し



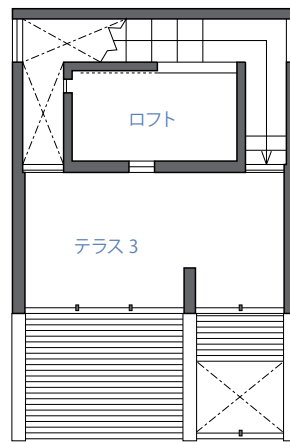
RF



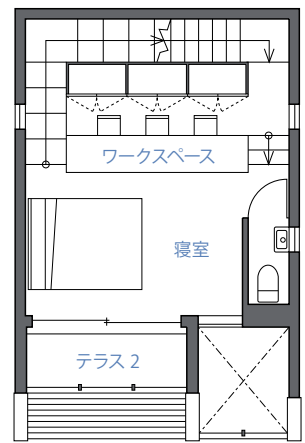
### Architect's Profile

山縣 洋

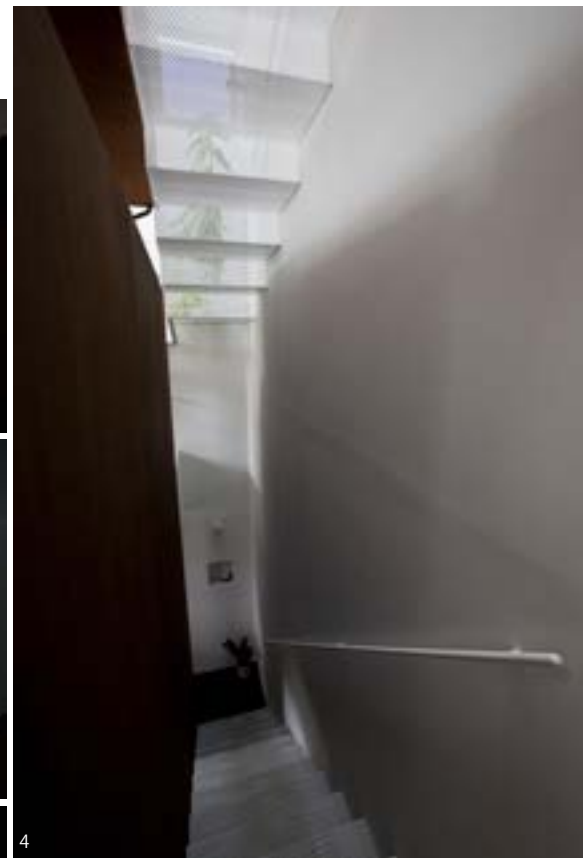
1962年東京都生まれ。'87年東京工業大学工学部建築学科修士課程修了。竹中工務店設計部、オランダ・OMA勤務を経て、2002年山縣洋建築設計事務所設立。現在、明治大学・東海大学非常勤講師。



ロフト



3F



### Data

敷地面積 / 54.98㎡ (16.66坪)  
 延床面積 / 93.63㎡ (28.28坪)  
 1階 / 32.36㎡ (9.81坪)  
 2階 / 26.75㎡ (8.11坪)  
 3階 / 26.75㎡ (8.11坪)  
 ロフト階 / 7.77㎡ (2.35坪)  
 用途地域 / 第1種住居地域  
 建ぺい率 / 60%  
 容積率 / 160%  
 構造 / SE構法

### Material

[外部仕上げ]  
 屋根 / FRP防水  
 外壁 / 弾性リシン、成形セメント板  
 [内部仕上げ]  
 1階・2階 床 / ウォールナットフローリング  
           壁・天井 / プラスターボード+塗装  
 3階 床 / ウォールナットフローリング  
           壁 / プラスターボード+塗装  
           天井 / プラスターボード+塗装、  
           一部ラワン合板+塗装

### Instruments

厨房機器 / パナソニック  
 衛生機器 / TOTO、INAX (LIXIL)、CERA、グローエ  
 窓・サッシ / 新日軽 (LIXIL)、森の窓

設計 / 山縣 洋 (山縣洋建築設計事務所)  
 〒214-0023 川崎市多摩区三田1-26-28-302  
 ☎044-931-5737

施工 / 渡邊技建  
 ☎03-3324-7811

4. "SLOT" と呼ばれる階段室。2階から3階、3階からロフトへの階段は、パンチングメタルでつくられているので光と風を通す。白い壁面も光を反射する  
 5. 階段上部からの見下ろし。左手がロフト 6. 屋上に至る通路 7. 階段見上げ。トップライトの上に青空が望める 8. 木の箱のようなロフト。小さな家を使いこなすための+αの空間だ。さらに、階段右手からは小さな屋上に出られる